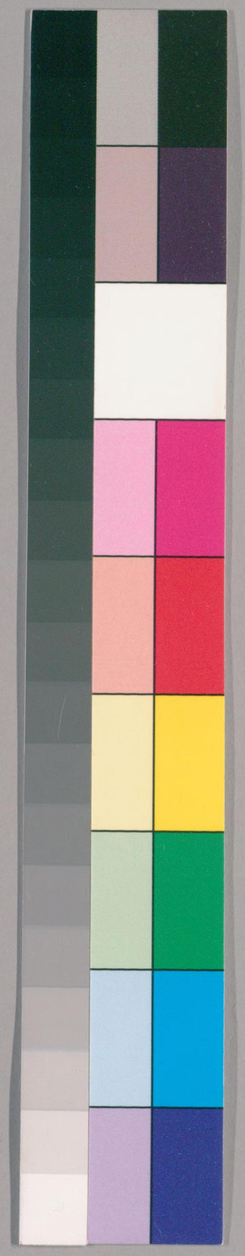


国立国会図書館　タイトル『色紙考』 請求記号 830-82

ガラス使用

色紙考

830
82

国立国会図書館　タイトル『色紙考』 請求記号 830-82

ガラス使用

色紙考

川崎千虎

或人色紙ノ故實ヲ問フテ曰ク、近年博覽會、若クハ共進會ニ出品セシ繪畫中ニハ、繪ノ上辺ニ色紙ノ形ヲ畫キタルモ、往往之レアリシガ、色紙ノ置樣、及ビ其寸法ハ、必ズ一定ノ法式アルベシ、請フラクハ、先生予ノ為メニ色紙ノ起源、及ビ其法式ヲ述ベラレヨ是レ唯予一人ノ益ノミニ非ズ、少壯畫家裨益スルコト大ナラント、余對ヘテ曰ク、是レ我薄學ノ能ク及ブ所ニ非ズト雖モ、姑ク我ガ見ル所ヲ以テスレバ、色紙形ノ行ハルヽハ、何時ニ始マリシヤ、未ダ詳ナラザルモ、奈良朝時代ノ佛畫ヲ見ルニ、亦其上辺ニ色紙ノ形ヲ畫キタルモノアリ、東京美術學校所藏ノ厨子扉ノ板佛是ナリ、其畫ハ、前ニ既ニ國華ニ掲載アリシガ、其寸法ハ左ノ如シ、

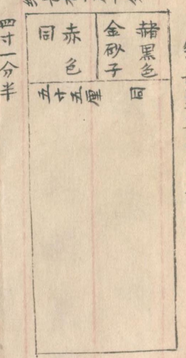
梵天帝釋天二枚

2. 12. 12 購求

国立国会図書館　タイトル『色紙考』　請求記号 830-82

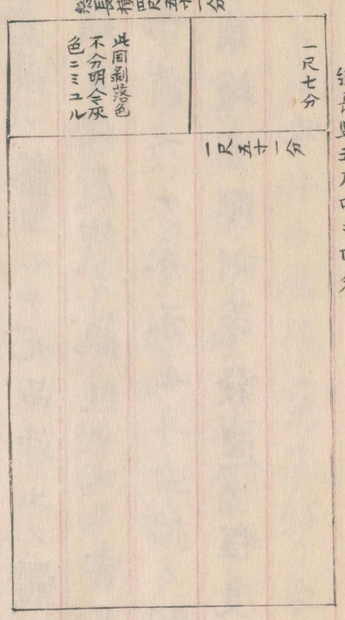
ガラス使用

四天王四枚



又高野山ニ傳ハル所ノ、勤操僧都ノ像ニ、色紙形アリ、勤操ハ弘法大師ノ師ニシテ、大虚空藏菩薩能滿所願等ノ法ヲ大師ニ授ケタリト云フ、其色紙ノ寸法ハ左ノ如シ、

勤操僧都像



右二者中、美術學校所藏ノモノハ、色紙形中、何事ヲモ書セズト雖モ、高野山所傳ノモノニハ、色紙形中、勤操ノ傳ヲ書セリ、又東寺ニ傳ハル所ノ八祖ノ像、赤色紙形アリ、且ツ此像ハ、眞如法親王ノ御筆ナリト云フ、其他一一枚擧ニ暇アラズ、試ニ之ヲ古書ニ徵スルニ、

榮花物語巻十八、玉のうてなの巻に、西によりて北南さ

国立国会図書館　タイトル『色紙考』　請求記号 830-82
ガラス使用

また、びんがーむきふ十よけんのかべ（中略）北南のそはのかた、びんがーのはしらのそばごとよ繪をかゝせたまへり、かみよりしきし形をしてことばをかゝせたまへりそこかよあふぎて見えがたく九品蓮臺のありさまなり、

是レ色紙形ヲ、佛殿ノ扉ニ畫キタルモノナリ、宇治平等院鳳凰堂ノ畫扉、又ハ壁畫ハ則チ此類ナリ、鳳凰堂ノ畫扉及ビ壁畫ハ宅間為成ノ筆ニシテ、九品淨土ノ體相ヲ畫キ、其上部ノ色紙形ハ、中納言俊房卿ガ觀經ノ文ヲ書セリ、堂ノ建築ハ今ヨリ八百五十年前乃チ永承七年、宇治ノ關白賴通公ノ建立ニテ、當代ノ建築繪畫彫刻等、發達ノ程度ヲ徵スベキモノハ此堂ニ若クモノナシ、又

古今著聞集巻五和歌部ニ、天暦の御とき、月次御屏風のうたゝ、摂政衣つゝみ時や来ぬらん　秋ふきかへす雲井の雁がねを、と詠て云、

紀時文件の色紙形をかく時、筆をおとしてかきそんじたりけるを、貫之が見て、うつべき時やこれもと申ていそく、貫之が延喜の御時、同屏風に駒迎への所よ、

あふ坂の關のしみつにかげ見えて今やひくらん望月の駒

と詠す、これ難あるやいかゞ、時文口をとゞめてあさやかにもちゐさせ給ひけり、

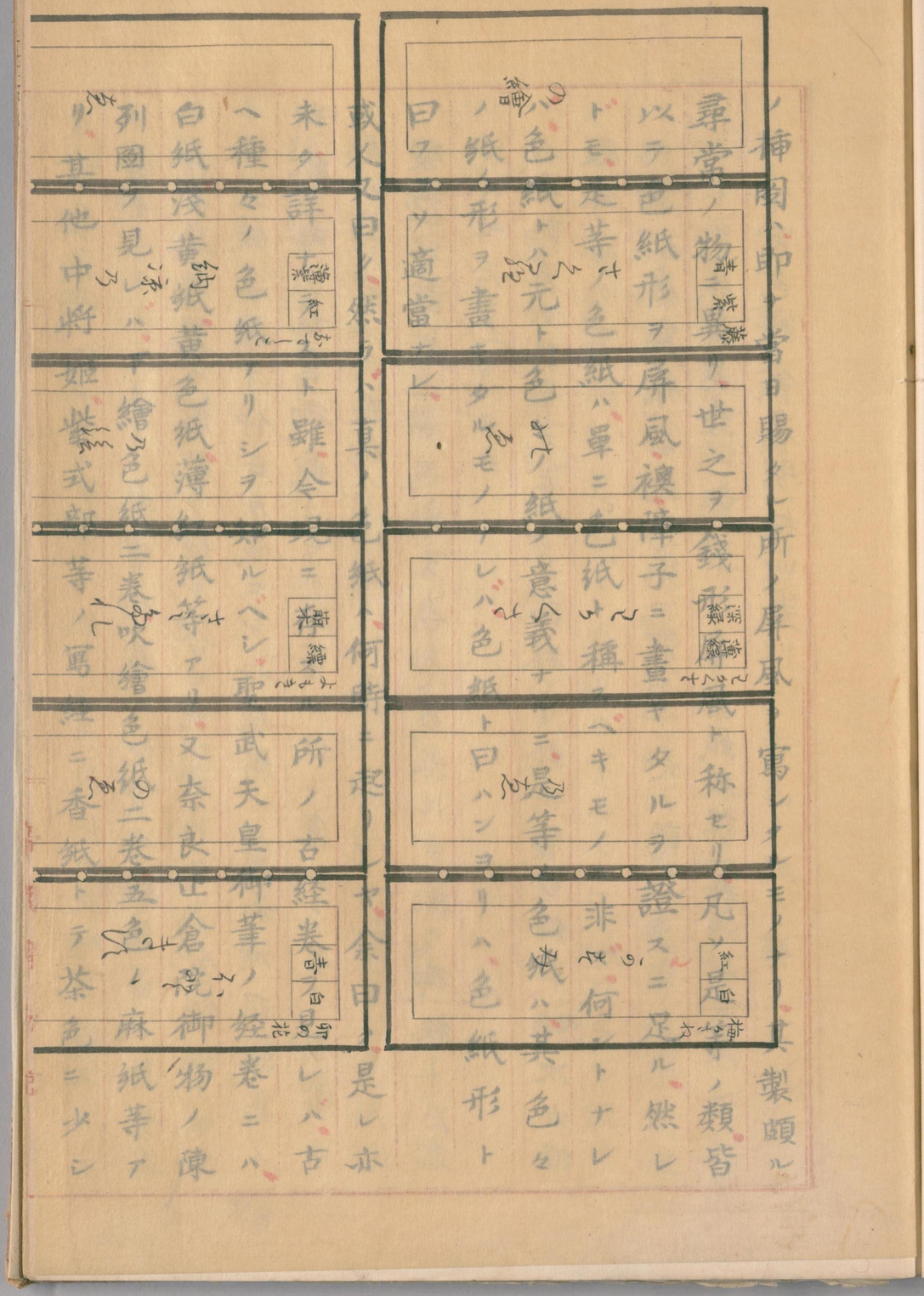
兼盛よやがてたづねんと詠ける、

榮花物語巻八、はつ花の巻ふ、その御具どもの屏風どもはた、

めぐりつねのりなどがかきてたてまつりたるふすまこそはしきしまのみちのおくかしそのかみのものなりたはかきたれいみじうめでたしなどいまの世にたちはまじりてあざやかにもちゐさせ

国立国会図書館　タイトル『色紙考』　請求記号 830-82
ガラス使用

多まゐりしに、ことをひろたかぐがかきうる屏風どもに侍従
中納言（行成）のかきたまへるにことはあめれ、
入木道書式ともよ書よ、後京極殿記を引て曰く、立新圖屏風
一帖、其前數高麗端疊一枚、
同書に賀之記を引て曰く、この題みなよろしくまいらせあ
はれたりしを人人めしあつめて一首づゝよみてさまざまに
繪どころのかゝこまき限りめしてこのうちの心をいひきら
せてかゝせらる此ゝきゝがくは攝政殿かゝせたまふ、
右ノ後京極殿記及ヒ賀之記ハ五條ノ三位俊成卿九十賀ノ時ノ
事ヲ記シタルモノナリ、俊成卿ハ、後鳥羽院ノ御師範タル故ヲ以
テ建仁三年卿ノ齢九十ニ躋リシトキ、嘗テ光武（孝）天皇カ僧正遍昭ニ賀
ヲ賜ハリシ例ニ由リ、禁中和歌所ニ於テ賀ヲ賜ヒ、新ニ屏風及
ビ褥等ヲ作リ、御製ノ歌ト鳩ノ杖トヲ辱フセリト云フ、別紙ノ



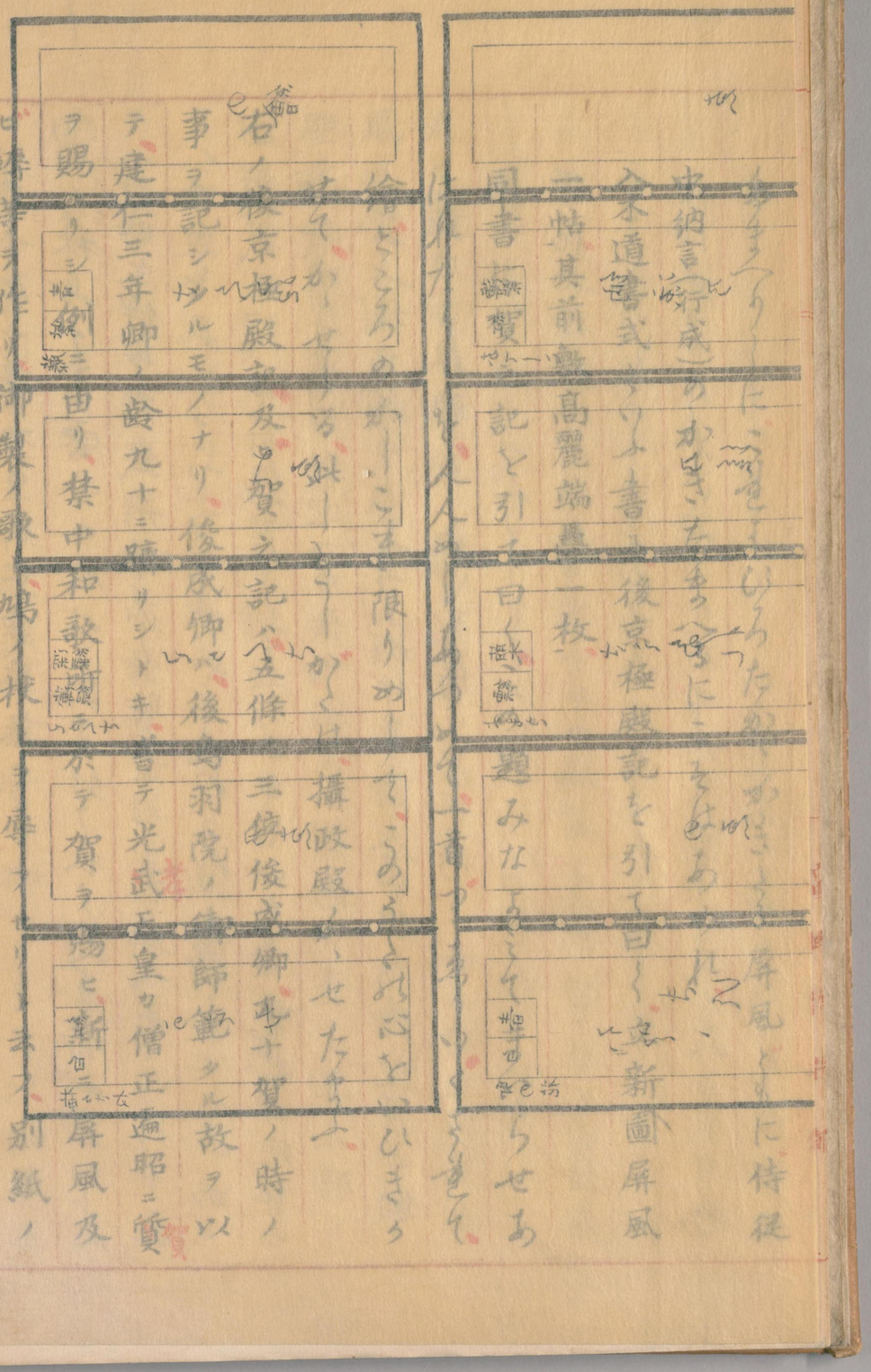
国立国会図書館　タイトル『色紙考』　請求記号 830-82
ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『色紙考』 請求記号 830-82

ガラス使用　挟み込み物

ノ挿図ハ即チ當日賜タル所ノ屏風ヲ寫シタルモノナリ其製頗ル尋常ノ物ニ異リ世之ヲ錢形屏風ト称セリ凡ソ是等ノ類皆以テ色紙形ヲ屏風襖障子ニ畫キタルヲ證スニ足ル然レドモ是等ノ色紙ハ單ニ色紙ト稱スベキモノニ非ズ何ントナレバ色紙ハ元ト色々ノ紙ノ意義ナルニ是等ノ色紙ハ其色々ノ紙ノ形ヲ畫キタルモノナレバ色紙ト曰フコソ適當ナレ

或人又曰ク然ラバ真ノ色紙ハ何時ニ起リシヤ余曰ク是レ亦未ダ詳ナラズト雖今現ニ存スル所ノ古經巻ヲ見レバ古ヘ種々ノ色紙アリシヲ知ルベシ聖武天皇御葦ノ經巻ニハ白紙淺黄紙黄色紙薄紅紙等アリ又奈良正倉院御物ノ陳列圖ヲ見レバ下繪色紙二巻吹繪色紙二巻五色ノ麻紙等アリ其他中將姫紫式部等ノ寫經ニ香紙トテ茶色ニ少シ



国立国会図書館　タイトル『色紙考』 請求記号 830-82

ガラス使用

ク黄色ヲ帯ビタルモノアリ、然レドモ、色紙ハ又唯ニ経文ノミヲ書スルモノニ非ズ、桂宮御蔵ニ、紀貫之朝臣筆ノ萬葉集一巻アリ、此巻ハ色紙ヲ継キ合セタルモノニテ、金銀泥ノ下繪アリ、又故古筆了仲氏ガ蔵セシ行成卿ノ筆和漢朗詠集ノ料紙モ、略ボ桂宮御蔵ノモノニ等シ、試ニ色紙ノ名ノ古書中ニ見ハレシモノヲ擧レバ、

榮花物語巻二十三、こまくべのの巻に、色紙の御経ーたゐかくせたまへり、云云

人車記巻六仁安元年九月、西林寺経供養の條に、前略次六條殿佛事、

三ペ虚空藏菩薩ノ像一體（ペハ尺ノ誤カ）

色紙法花経一部　素紙同経一部

色色紙金光明経四巻

トアリ、人車記ノ所謂色色紙ハ則チ色色ノ紙ト解スベシ、又和名類聚鈔巻五調度部、文書具に、紙兼名苑注云、紙古文作帋（和名加美）紙有二色紙檀紙穀紙屋紙阿苔紙斐薄紙苧名後漢和帝時蔡倫所造也（この穀の字の下に紙の字を脱ーたるなるべし、穀紙紙屋紙とあるべきなり）

トアリ、又

和訓栞巻十一之、倭名鈔ノ色紙といふは賤也といふ、染紙と歌よめる物なるべし、今いふ色紙といふ、色紙染紙の字、晝史にみえたり、

トアリ、又

江家次第巻八、乞巧奠の條に、前件針金銀各一、差二色紙一枚、

トアリ、其他

帝國博物館
帝國博物館

国立国会図書館　タイトル『色紙考』　請求記号 830-82
ガラス使用

枕草紙春曙抄巻一、赤ろきしをしたる、みてこれは
たゞ今おがえんふることひとつづゝかけとおぼせ
らる、

同書巻十、うきもの、みちの國がみ白きしきしたゞ
のも、赤ろうきよきはうれしー

同巻、いづちもくいきうせかばやと思ふに、たゞの紙のい
とうろうきよろなるよきしきしみちの國
紙ゐどそつれはかくてもおばしありぬべかりけり
なんおがえ侍る、

同書中、色紙ノ名尚多ク所々ニ見エタリ、又

源氏物語繪合の巻、赤ろきしきしあをきうしきし黄ゐ
ろ玉の軸なり、畫そつねのうてはみちかぜなれば、いま
めかしうおかし、

同書行幸の巻、赤ろきしきしに、そそうけたる御ふ
みのこまやかにけしきぞそもあるぬがたうきを
見たまひて、

同書橋姫の巻、御ふみ奉りたまふ、赤ろきしきしのあつえ
てすみつき見呼ありておかきたまふ、

トアリ、尚同書中、色紙ノ名ノ見エル多シ又

榮花物語巻四、見はてぬ夢の巻ふこのあはたゞのうて、一
夜寝られざりしかば、かくなん〳〵歌をかうて硯のし
たるふる白き色紙におかきつけてえさせう、

同書巻八、そつ花の巻ニ、御手筥ひろひかうつかくに
はゝろきしきしつくりたるさうゞ、古今、後撰、拾遺ふ
ど五まきふつくりほく、侍従中納言行成と、延幹と、を

帝國博物館

国立国会図書館　タイトル『色紙考』　請求記号 830-82
ガラス使用

の〳〵さうしなどゝ、四まきをあてつゝかいせうへり、

明月記、文治四年四月廿二日、入道殿令二参院一給、為二勅撰一進覧也、日来自筆御清書、白色紙、紫檀軸貝鶴丸羅表紙紐組、外題中務大輔伊経書レ之、

右ノ文中、白キ色紙トアルハ、普通ノ素紙ヲ謂フニ非ズ、別ニ白色ヲ施シタル一種ノ色紙ヲ謂ヘルナリ、倭名類聚鈔ニ色紙檀紙ト見エ、枕草紙ニ白き色紙たゞのもとろ〳〵きよきはえ〳〵しもうれ〳〵トアルヲ以テ知ルベシ、藤井高尚翁が松の落葉ニモ、いにへ〳〵まき〳〵といひつゝ、ひと〳〵そさの紙の名なりト云ヘリ、又

枕草紙上巻七、くゝみいろと、ほをやう〳〵見て、

トアリ、所謂くゝみ色の色紙トハ、春曙抄の註ニ、源氏物語にも、こまきの胡桃色の紙とあり、表ハ香色ニ裏ハ白き紙なり、とあり、又

源氏物語浮舟の巻に、下人の申し侍りしいかきし〳〵のいと〳〵ふる〳〵なん申し侍り〳〵聞ゆ、

今昔物語巻三十平定文假借、本院侍従本語に、年十七八許ノ、姿様體可咲クテ、髪ハ袖長二三寸許不足、又瞿麥ノ薄物ノ袖、濃キ袴四度ケ氣無ゲニ引上テ、香染ノ薄物ニ菖ヲ裏テ、赤キ色紙ニ繪書タル扇ヲ差隠シテ、局ヨリ出テ行ク、

又

明月記別記、正治二年九月廿七日、今日被レ進二御歌於院一百首御清書、色紙雖レ打わざ〳〵うちたるを見えぬほどに打也、

国立国会図書館　タイトル『色紙考』 請求記号 830-82

ガラス使用

たけそのまき色紙也、依レ仰一反見レ之、ふるたへと可レ候之由申畢、巻レ之、今一枚ヲ禮紙ヲ巻天、其上ニ同シ色紙ヲ細ニ分計リニ切天、墨引天、檀紙二枚ニ裹天、立文のやうにて、シリカシラハ不レ捻、押折天、一裹十首ハ尋常タヽケタカ檀紙ニ御清書、又檀紙ノ懸紙ヲ切天、又以ニ二枚一如ニ百首一裹也、

文中色紙ヲ打ットアルハ、槌ヲ以テ紙ヲ敲クノ謂ナリ、古畫ノ職人畫ノ繪ニ、経師ガ紙ヲ打ツノ状態ヲ寫セルモノ多シ、

又

源氏物語梅ガ枝の巻ニ、又こゝのかむやのしきしの色あひ、花やうなるにみぐれふるさまなど所がきたるさまなど所がきトアリ、かむやの色紙トハ、洛西紙屋川ニテ漉キタルモノヲ謂フ、

雍州府志巻七ホ、古禁裏院中、書捨反古堆盈、或有ニ艶書戀慕之詞等一、故厭人見レ之、則裂レ之、直使ニ紙師再漉一レ之、漉レ紙者以ニ紙屋川水一洗レ之数回、合ニ登呂呂根汁一而漉レ之、登呂呂葉并花似ニ木綿花一、至ニ仲秋一花開、其浸ニ水間経ニ三五日一、故宿ニ紙屋川辺一而造レ之、故俗謂ニ宿紙一、其製レ紙處号ニ宿紙村一、今於ニ西洞院邊一造レ之、

トアレバ紙屋ノ色紙ハ紙屋川ニテ漉キタル色紙ヲ指スコト、疑ヒナシ、但雍州府志ノ、所謂宿紙屋川辺ニ而造レ之、故俗謂ニ宿紙一ノ説ハ、信據スルニ足ラズ、前ニ陳ベタル和名類聚鈔ノ紙屋紙トアルハ、之ト同一ノ品ヲ云フモノナレバ、同書中穀紙屋紙ノ間ニ一ノ紙ノ字ヲ脱セシコト、亦推シテ知ルベシ、又

丹鶴圖譜の類聚雑要抄巻四丁、北庇具、手筥第二懸子

造紙二帖、羅表紙、紅紫等色紙、但薄様重也、

国立国会図書館　タイトル『色紙考』　請求記号 830-82

ガラス使用

上ハ萬葉集抄、下ハ後撰集抄、
トアリ、而シテ普通ノ類聚要抄ニハ、
造紙二帖、紅紫等色、
羅表紙、紙ハ但薄様重也、
ト見エ、是レ全ク紅紫等色ノ色ノ字ヲ、紙ノ但ノ紙ノ字ノ上
ニ在ルベキヲ誤リ寫セシモノナラン、又
薄様色目に、源氏物語ニ、白き色紙のたてまつれる、枕
草紙ニ陸奥紙にて、白き色紙などに見えたる、白瑩の薄
様なるべし、伊勢太神宮へ奉らるゝ、宣命ハ縹色、加茂、松
尾等ハ紅梅、その外の神々へハ、黄なる紙を用ひらるゝ、よ
ー云、又聖武天皇の宸翰に、淺黄、茶、薄紅の紙、光明皇后に
香の紙、嵯峨天皇ニ淺紅の紙、白河院ニ五色の紙、蝶鳥の下
繪あるなど、みな雲紙ニ先だちてあるものなり、古へ

帝國博物館

なべて文ともれ歌ともれ、かゝみふかきものを、色紙
ニもせよ、こゝに尋常の事なり、
トアリ、又
貞丈雑記巻十四、うすやう、あつやう、中やうなど、ニ紙ハ、
皆鳥の子の紙をうすくすきたるものゝ、三段の品あるなり、
うすやうハ、舊記ニ見えたり、あつやう、中やうの名ハみえざれ
ど、上代よりうすきとあつきとハ今のごとくなりぬ、たゞ
鳥の子のうすきをうすやう、あつきをあつやうとハいふなり、今
きぬの萬枚書條々ニ、厚やう、薄やう、鳥の子、風情の小文の御
内書云々、
或人又問フテ曰ク、薄様重ト云ハ如何ナルモノナルヤ、對ヘテ曰ク、
所謂重ト云ハ、殆ンド女官ノ衣服ノ色ノ重ノ如ク、松重、梅重
ト云テ、二枚ヅヽ、重ヲ合セタルモノヲ曰フ、一枚ナラバ表裏各色

国立国会図書館　タイトル『色紙考』　請求記号 830-82
ガラス使用

ヲ異ニス、假令ハ

梅重ねハ、表濃紅裏紅梅、
柳重ねハ、表白裏青、
櫻重ねハ、表白裏赤、又表白裏ゑびいろ、
桃重ねハ、表紅裏紅梅、
躑躅重ねハ、表蘇芳裏青、
卯の花ハ、表白裏萌木、
なでしこハ、表濃薄色裏青、
萩重ねハ、表紫裏白、
菊重ねハ、表白裏紫、
紅葉重ねハ、表黄裏蘇芳、
枯色ハ、表白裏薄色、
松重ねハ、表紫裏濃青、
若草ハ、表薄青裏濃青、
黄柳ハ、表薄黄裏薄青、
藤重ねハ、表薄色裏薄青、
橘ハ、表濃朽葉裏黄、
夏萩ハ、表青裏濃紫、
女郎花ハ、表黄裏薄青、
龍膽ハ、表蘇芳裏青、
黄紅葉ハ、表黄裏濃黄、
はつ雪ハ、表白裏白のくろみ、
木賊重ねハ、表萌木裏白、

等ノ如シ、是等ハ詳ニ薄様色目、其他重子ノ色目、色ノ千種、裝束色彙、四季ノ色目等ノ諸書ニ見ユレバ、又重子ノコト、源氏物語ニ見ユレバ、其起源ハ藤原氏ノ盛時ニ始マリシモノナラン、然レドモ亦時代ニヨリテ、異同ナキ能ハズ、故ニ前ニ陳ベタル俊成卿扇風ノ色紙ノ重ネト、余ガ此ニ擧タル例ト比較スレバ、彼此差違ナキ能ハズ、

此ニ擧ゲタル例ノ、梅重ねハ、表濃紅裏紅梅、
前ニ陳ベタル扇風ノ重ねハ、白と紅、
此ニ擧ゲタル例ノ若草ハ、表薄青裏濃青、
前ニ陳ベタル扇風ノ重ねハ、薄綠と深綠、
此ニ擧ゲタル例ノ藤重ねハ、表薄色裏薄青、
前ニ陳ベタル扇風ノ重ねハ、紫と青、以下畧、

是レ固ヨリ時代ノ變遷ニ由リテ、斯ノ如キ異同ヲ生スルモ

国立国会図書館　タイトル『色紙考』 請求記号 830-82
ガラス使用

ノナリ、故ニ

薄様色目に諸書ニ載る呼の重ねの色目一定なるべきも、その松といひ、櫻といふ名ハ大かた同じ、其名同じくして色目かはるあるひは色目おなじくして時によりて名のかはれると有、それハ其家々に託あることなるべし、

トアリ、其他源氏男女装束抄ノ後附ニモ、女官飾抄、胡曹抄、藻鹽草等ヲ引テ、其異同ヲ示セリ、然レドモ今時若シ色紙ニ志アルモノ、紙雛ノ繪ニ桃重子ノ色紙ヲ以テシ、天長節ノ歌ヲ書スル春景ノ圖ニ、櫻重子ノ色紙ヲ以テシ、菊重子ノ色紙ヲ以テスルガ如クナレバ、大ニ運用ノ妙ヲ賞スルニ足ルベシ、

襖障子ノ類ニ色紙形ヲ押タルモノ、最モ古キ時代ヨリ、已ニ然リトス、

古今著聞集巻十一、畫圖部、賢聖障子を、寛平の御時はじめてかゝれけるなり、（中略）はじめ色紙形に銘をかゝれたり、されば道風朝臣の申文なるも、七度けがせるより載りくり、其銘いつ頃よりかゝれずなるにか當時はみな色紙形ばかりで侍るめる、

參考源平盛衰記、巻四十八、法皇大原入御ノ條に、御傍ノ障子ノ色紙形ニハ、諸経ノ要文共被書タリ、中ニモ一切業障海皆従妄想生若欲懺悔者端座思實相ト見エタリ、

新猿樂記、太郎主者能書也、（中略）傳額手本御書草紙屏風障子之色紙形、

古畫ノ内ニモ、襖障子ニ色紙形ヲ押シタル躰ヲ畫キタルモノ、数多見エタリ、（裏面挿圖參照）

国立国会図書館　タイトル『色紙考』　請求記号 830-82
ガラス使用

以上列擧スル所ヲ以テ見レバ、

書法図解ニ、色紙の始りは、人皇六十代醍醐天皇の朝よりはじめて色紙がくを改めさせまし、御製をも遊ばされなどして、時つり事去りて、寂家小倉山荘にて、法を改めたまひ、為家卿為相卿に勅ありて、色紙形ちらし書の法を改めたまふ、トアレドモ、醍醐天皇ノ朝及ビ定家卿ノ時代ニハ一定ノ法式アラザリシナリ（押様ハ大躰一式ナリ）今世ニ傳ハリタル色紙ニ就テ其寸法ヲ按スレバ、

紀貫之朝臣色紙（世に寸松庵の色紙といふもの）竪四寸二分半、横四寸二分弱、

寂蓮法師色紙（白無文）竪四寸九分半、横四寸四分、

後京極良経卿色紙（白無文）竪六寸四分、横五寸五分強、

同公小色紙竪二寸四分半、横二寸三分半、

京極黄門小倉色紙のうち、（集古十種所載）尾州家藏こひすてふの色紙竪六寸一分弱、横五寸、

同紀州家藏こぬひとをの色紙竪五寸六分半、横五寸一分、

同藤堂家藏君がよめの色紙竪五寸一分弱、横五寸三分、（全あり、今缺す）

同加州家藏やへむぐらの色紙竪六寸一分弱、横五寸三分、其余猶異

同卿色紙竪五寸二分、横四寸五分、

慈鎮和尚色紙竪五寸二分、横四寸五分半、

筆者不知鎌倉時代小色紙竪二寸六分半、横二寸三分、

頓阿法師色紙四寸八分半、横四寸八分、

右ノ如ク、其寸法全ク一様ナラズ、而シテ其寸法ヲ記シタルモノハ、

書法図解

竪六寸一分、幅五寸、

御製、

帝國博物館

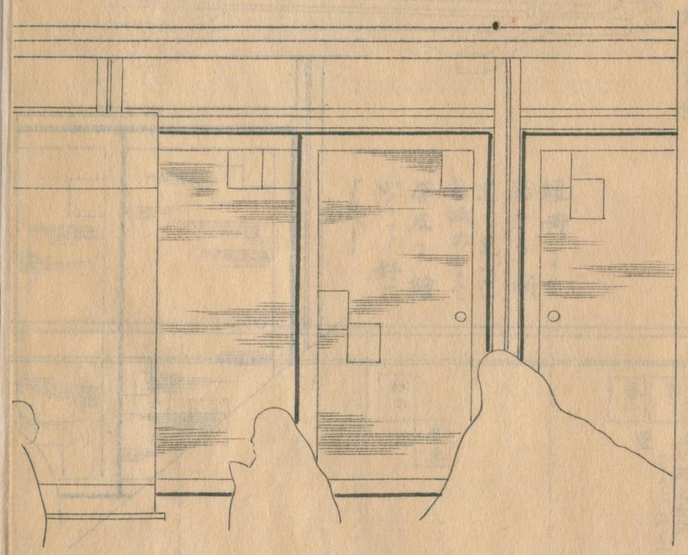
国立国会図書館　タイトル『色紙考』　請求記号 830-82

ガラス使用

竪六寸四分、幅五寸五分、
竪六寸五分、幅五寸七分、
竪六寸五分、幅五寸九分、
竪六寸九分、幅六寸、
竪六寸八分、幅五寸六分、
竪七寸八分、幅七寸三分、
翰目抄、色紙寸法、
竪七寸二分、横六寸二分、
昔法
竪六寸八分、横六寸二分、
表具之書、色紙寸法、
色紙　幅五寸五分、長六寸五分、
小色紙幅二寸、長一寸八分（一寸ハ二寸ノ誤リカ）
大方小色紙之寸法、
御製ヲ平人のかく時、
親王、攝家、門主、
大納言、宰相、
中將、少將、殿上人、
諸大夫、平人、
打上、

梅窓筆記巻下、八木奥儀抄ニ云、色紙形ノ寸法ノ事、竪サマ寸法ヲ取テ、其ヲ十六ニワリテ、今二分ツヽメテ、十四分ニヨコサマノ廣サヲ可切也、是カ吉様ニ有ナリ、

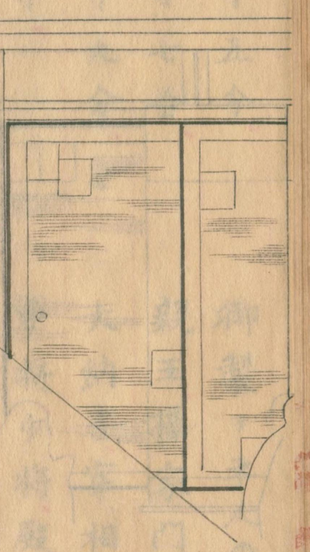
大和國當麻寺藏、
法然上人繪傳所載、
襖障子ノ色紙形、
土佐吉光繪



古畫巻中ニハ尚アマタ所見アリ、イマ其一ヲコヽニ挙グルノミ、

国立国会図書館　タイトル『色紙考』 請求記号 830-82
ガラス使用

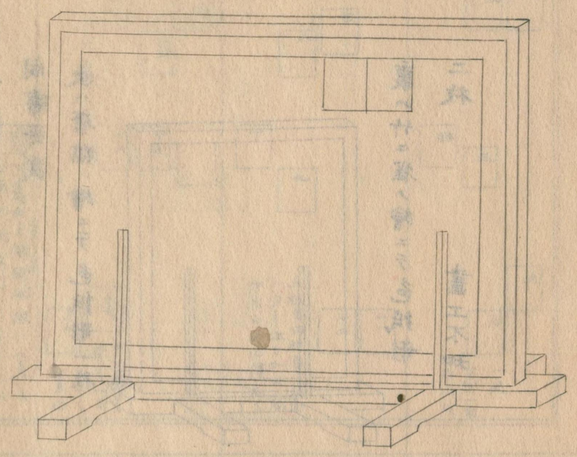
清涼殿ノ昆明池ノ障子ハ、
今モ昔ニカハラズ色紙
形ヲ置レタリ、



其一

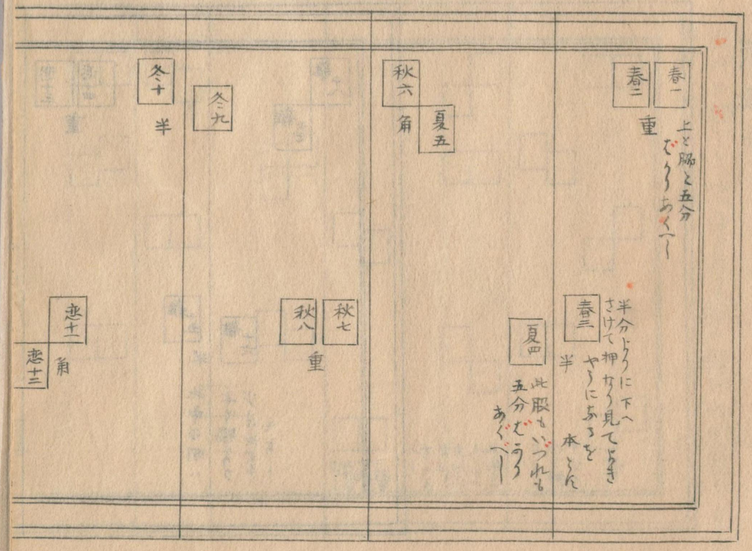
和歌所堯光法印傳

色紙押形古鑑所載



安政御造営志所載、表ハ昆明池ヲ畫キ
上ニ色紙形二枚アリ、
裏ハ嵯峨野ノ鷹狩ヲ畫キ色紙形一枚アリ、
土佐光清繪

短冊ハ
あまり間
遠く見ゆる
色紙のそと
屏風ニ繪
かくこと好に
よるべし



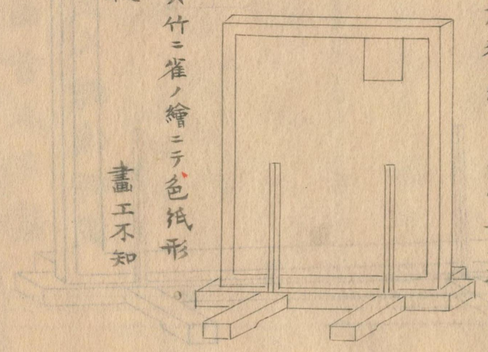
一雙　色紙三十二枚
短冊同之

国立国会図書館　タイトル『色紙考』 請求記号 830-82
ガラス使用

同小障子

同書所載

表ハ唐猫ノ繪ニテ色紙形一枚



裏ハ竹ニ雀ノ繪ニテ色紙形
二枚　　畫工不知

同　其二

東山殿御葬之時飛鳥井大納言雅親卿

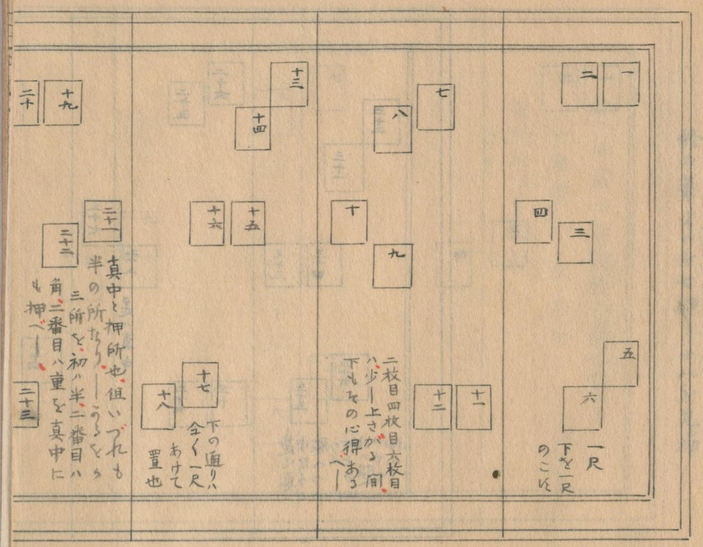
傳達

五尺三尺の屏風襖障子に色紙押樣

同之

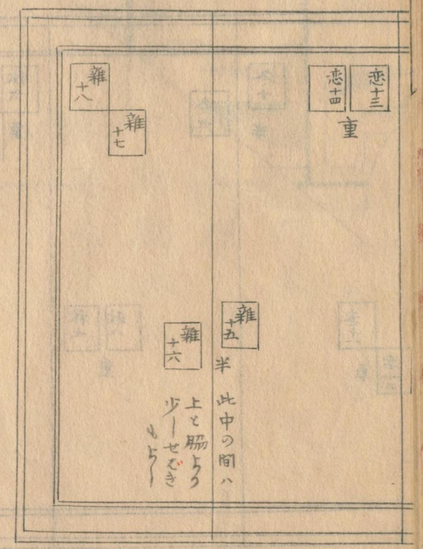
片方三十六枚短冊同之

一雙色紙七十二枚短冊同之

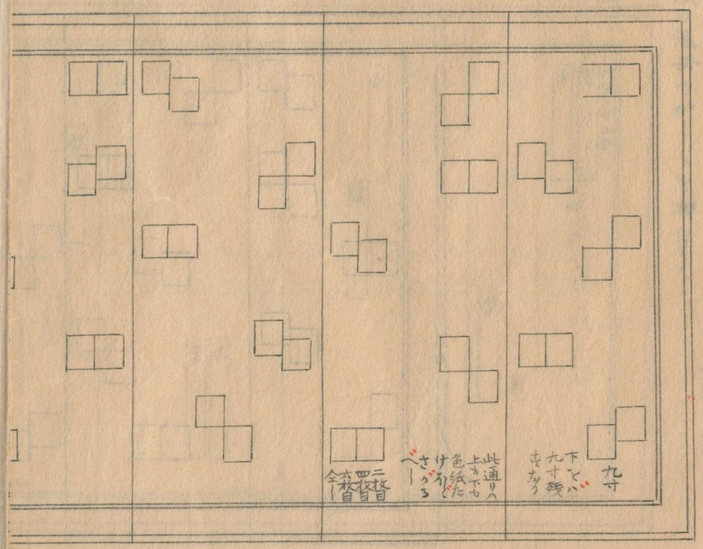


同　其三

六尺屏風六枚折



一雙色紙百二十枚この押やう短冊
ハより色紙ハあまり間狹にお
りてわろし



国立国会図書館　　タイトル『色紙考』 請求記号 830-82

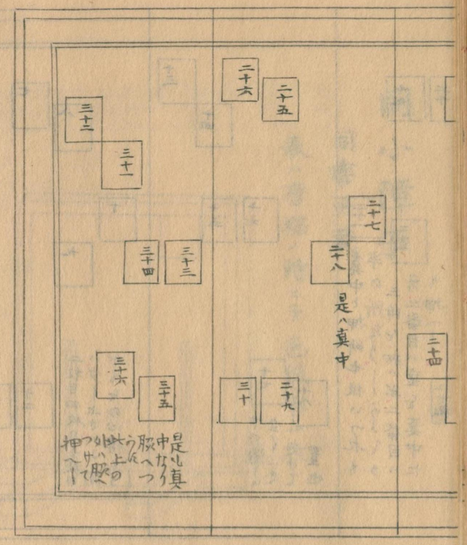
ガラス使用

同　其四

伊勢貞丈云、此等之事は同朋方の古實ニ

○中半角

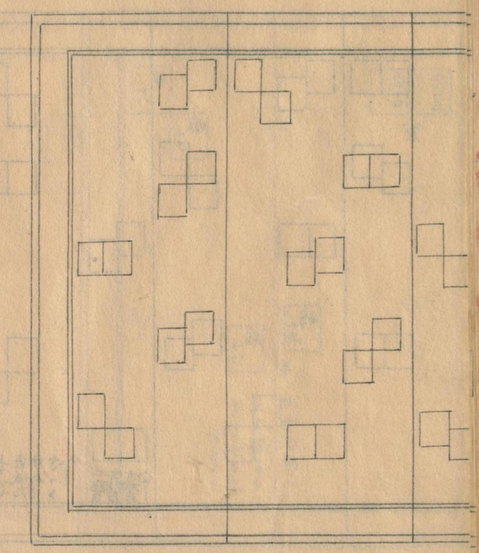
中と八同一様ニ並へ押也双へる間不程或ハ二分三分時



同　其五

色紙の如法に引押へ

一屏風は大縁二寸小縁二分なり、



にふるべし

○半角中

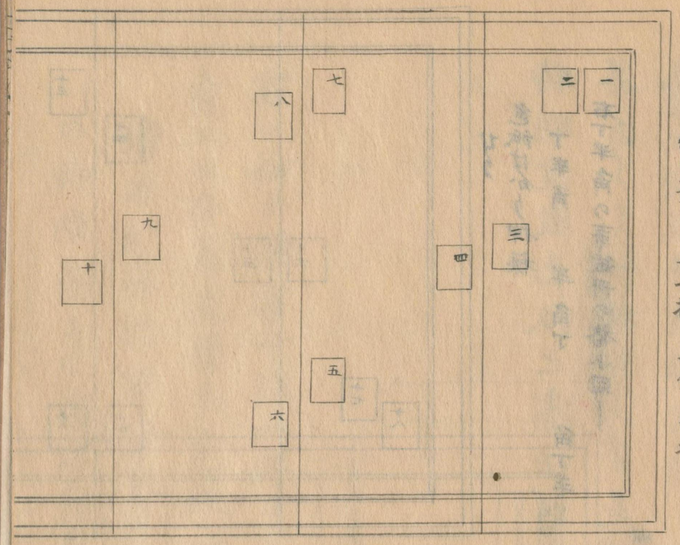
半ハふるふを中程ニてなゝめなり

○角中半

角ハ二ツなゝめを角と角と合せるなり

一二の有筆も押時如此次第あるべし

終の筆ニハ十七押ニ十八を先ニ押



一短冊は幅一寸八分長さ一尺五分、

短冊は多く押様、

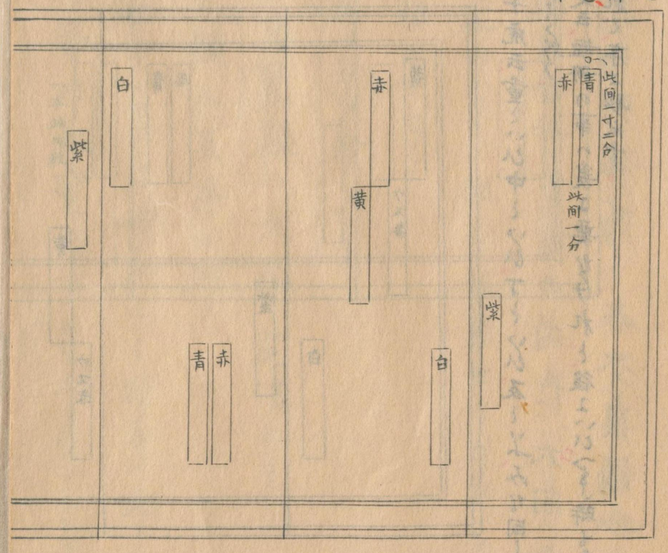
丁半角

丁半角

丁半角

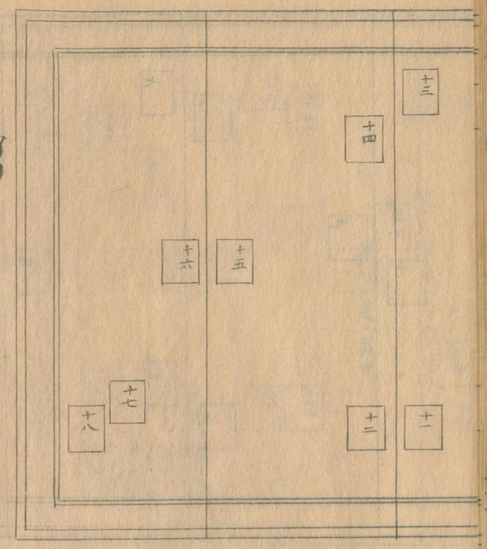
丁ハ短冊の頭をそろへたるより半ハ短冊の中程をそろて次の短冊のかしらを押なり、

角ハ短冊と短冊との角をよせるなり短冊色紙押まちまちなり次の如くなり、



国立国会図書館　タイトル『色紙考』 請求記号 830-82

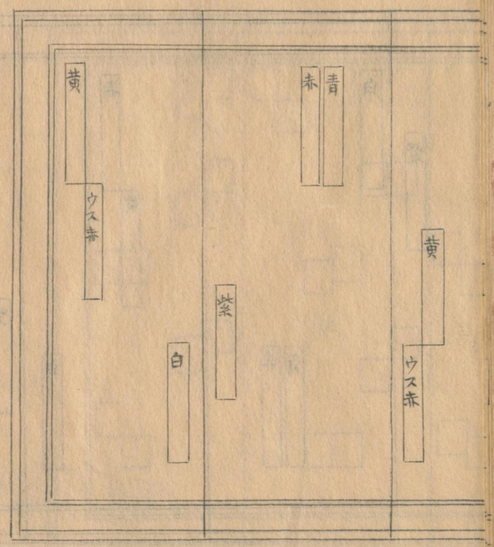
ガラス使用



色紙ばかり押様、

一丁半角　半角丁　角丁半

右丁半角の事短冊の格不同ニ、



千虎云重ねひ中とびひ及とよみな同ニ

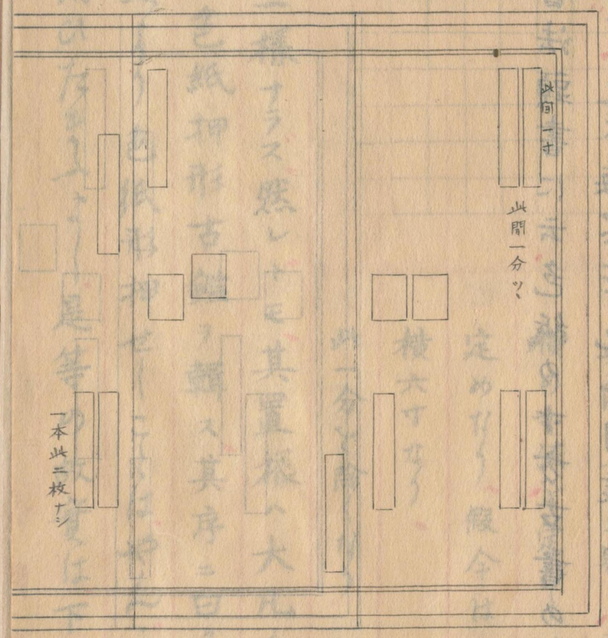
こゝかり

又云短冊の事ハ爰ニ要なけれど後ニいひつゞき時もあれで序ニ抄出す、

同　其六

四枚折屏風の押ざま、

色紙短冊押まぜ、

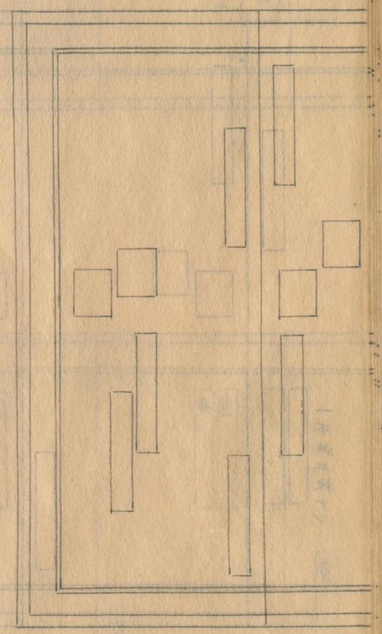


国立国会図書館　タイトル『色紙考』 請求記号 830-82

ガラス使用

持明院殿色紙之書法頭書に云、色紙の寸方、古書の内に大同小異ありて一様ならず、是は梅窓筆記に引據せし、入木奥儀抄の説尤もよろしきなり。

茶武歌連舞巻四、三光院殿御説、色紙寸法、大は竪六寸四分、小竪六寸六分、短尺寸法は、貴人ハ長一尺一寸八分、幅二寸、平人は長一尺一寸五分、幅一寸八分よ

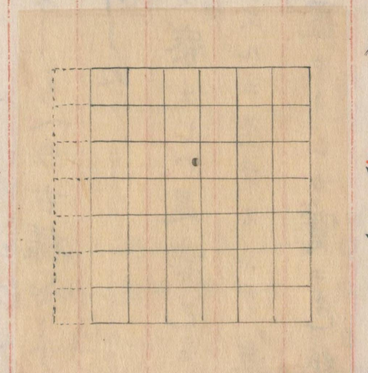


帝國圖書館

しとなり、

入木道書、式色紙寸法様々有事なり、當時は汰沙なし、師家にて取扱ふべきは、竪六寸一分、横五寸五分、

畫工渡辺清所傳色紙の寸法



眞角を七ッに割り、其一分を除きて、横の寸法を定むるなり、大小ともこの定めなり、假令は竪七寸なれば横六寸なり、

此一分を除くなり

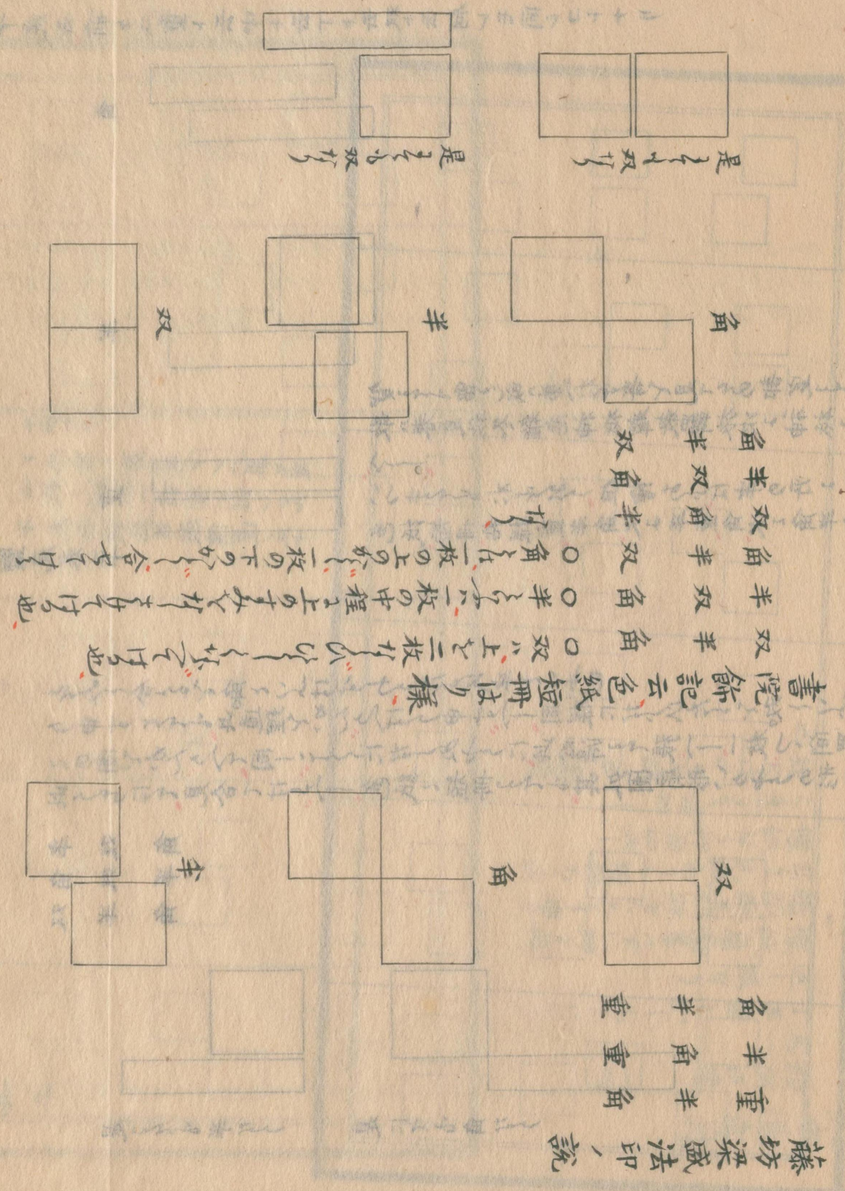
右ノ如く諸書寸法一様ナラズ、然レドモ、其置様ハ大凡ノ定法アリ、

畫工大石真虎曽テ色紙押形古鑑ヲ輯ス、其序ニ曰ク、

繪のかみに、古へより色紙形押せしことは、やんごとなきみよの御障子より、用ひたまひしこと、是等の故實は、下もまねびしなり、

べきもあしゝ、今爰ニ出せる色紙形押せ一屏風の古形ハ余集めて寫し置ぬる書中にあるを閲せるに年頃ひめ置けるもいつ〳〵しみの為ニ失はれん事のほいなく、又押繪せる屏風作らんまゝこの形ようなば、春夏秋冬あるは くさ〴〵の繪ゟ ど押ニそのしらべの古様とし新の一助なんと、梓ニのせ〳〵一ッの巻ともはなしぬ

此序ニ由りテ察スレバ、是書已ニ世ニ公ニセシモノヽ如クナレドモ、其實未ダ上梓スルニ至ラズシテ、眞虎没シタリ、余曽テ其原本ヲ或人ニ借リテ寫シ置タリシガ、實ニ色紙押形ノ最モ委シキモノト謂フベシ



書院飾記云色紙短冊はり様
双角半双角半双角半双角半
○双ハ上と二枚ゟ
○半ハ上と二枚ゟ
角ハ上と二枚ゟ
一枚の中程ゟ
一枚の上のかた
一枚の下のかた
ゟ合てはる也

国立国会図書館　タイトル『色紙考』 請求記号 830-82
ガラス使用

是にても角なり

是にても半なり

双半角
角双半
半双角

此うちにて、見合てけるべし、色紙と短冊とにても其外團扇形いろ〳〵の形にてもこの圖をかんがへて同じことくにかしめやうに此心得にて張べし一枚づゝ間置てはり申すとにても此道理をかんがへけり申すべし同様になりたるを双と云すみをすみと合るを角と云はすわりたる成半と云也

臨虎巻二十

重

半

角

色紙短冊粘様重半角次ニ半重角次ニ角半重と云つまりどもおもなり但繪あらば半の呼ニおすべし

歌ハ春夏秋冬雜恋神祇釋教羇旅次ニ神祇ろそも賀ろそも留ニ或ハ第一おくの哥と見てその部定ろそもす

千虎云前々ニ重ト云中ト云丁ト云双ト云何レモ同シコトナリ

ガラス使用
国立国会図書館　タイトル『色紙考』　請求記号 830-82

形いろ〳〵の形そ
一枚づゝ間置ては
たゝを双〳〵ゝすみを

重角次ゝ角半重と
ば半の呼ゝおす

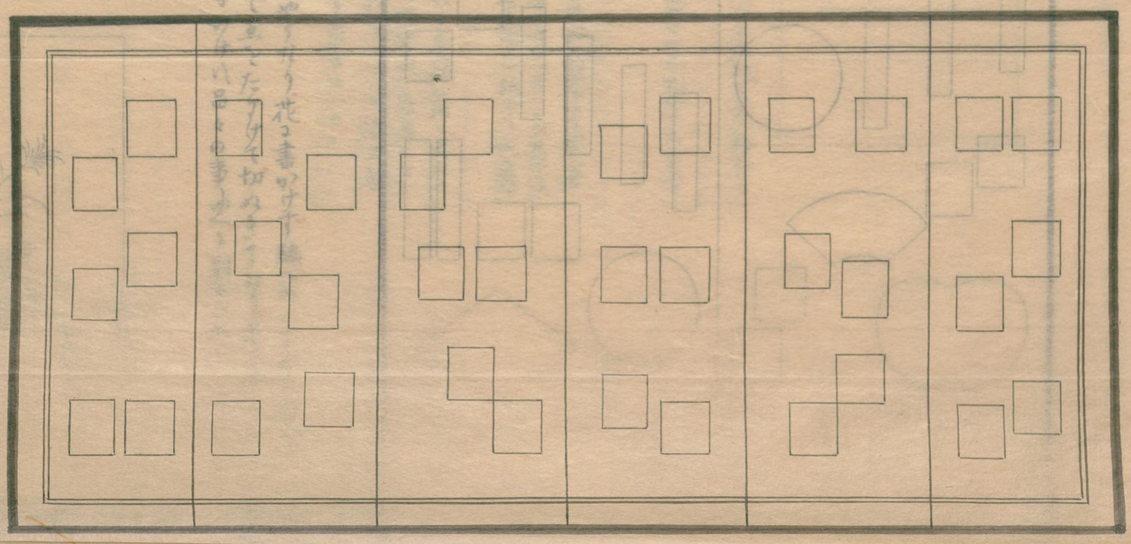
辨旅次ゝ神祇そ
見てその部定そする

入水道書式

頓阿口傳　一双

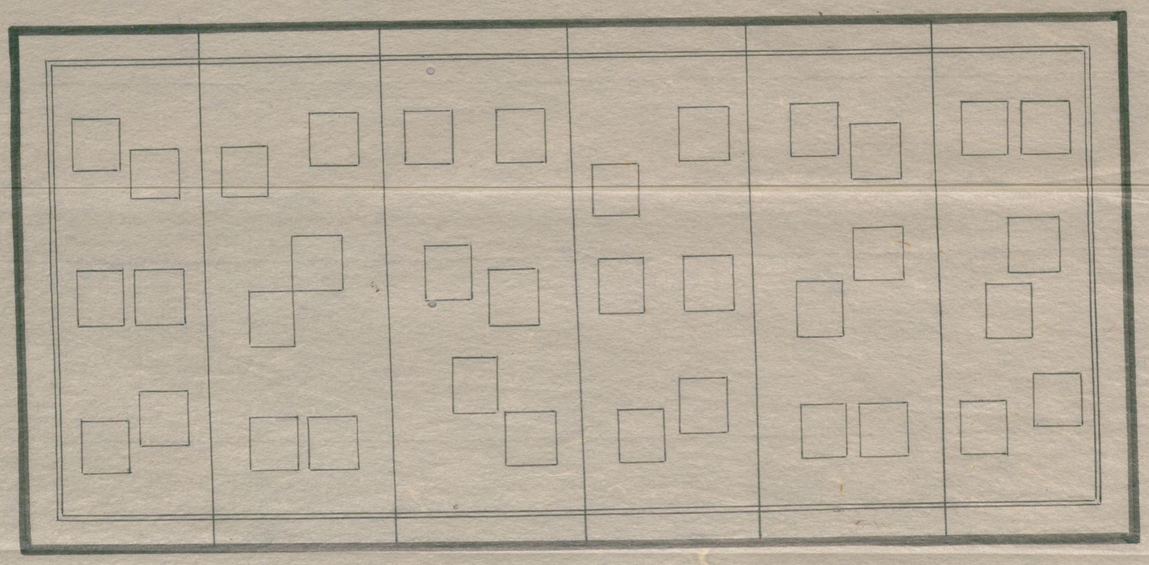
其一

丁半角とおりあとハおり
返し一張ゟ、
懐紙扇面茅ハ下に押す但
攝関親王門跡方ハ上ゟ押す
ゟ、色紙ありて短冊ゟ扱
懐紙ゟ押順如此し
こまゝて順知べし
短尺ばかりの時ハ色紙の心得
也、

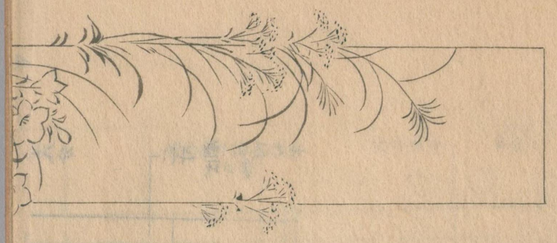


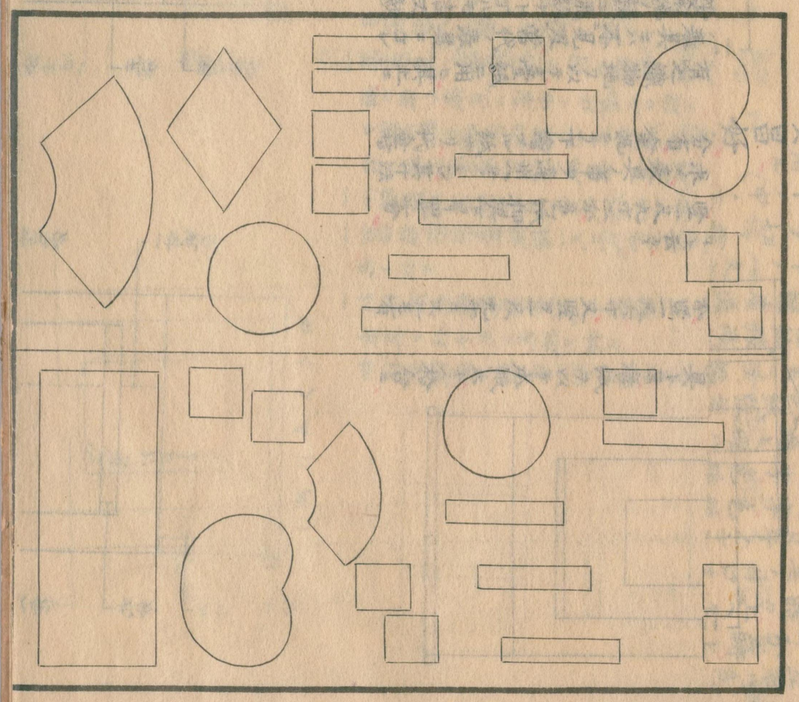
其二

千虎云飛鳥井殿傳達ノ三十
六枚ノ押形ハ前号ニ出シタル
ト此ノ図ト異ル所アレバ再ト爰
ニ出セリ



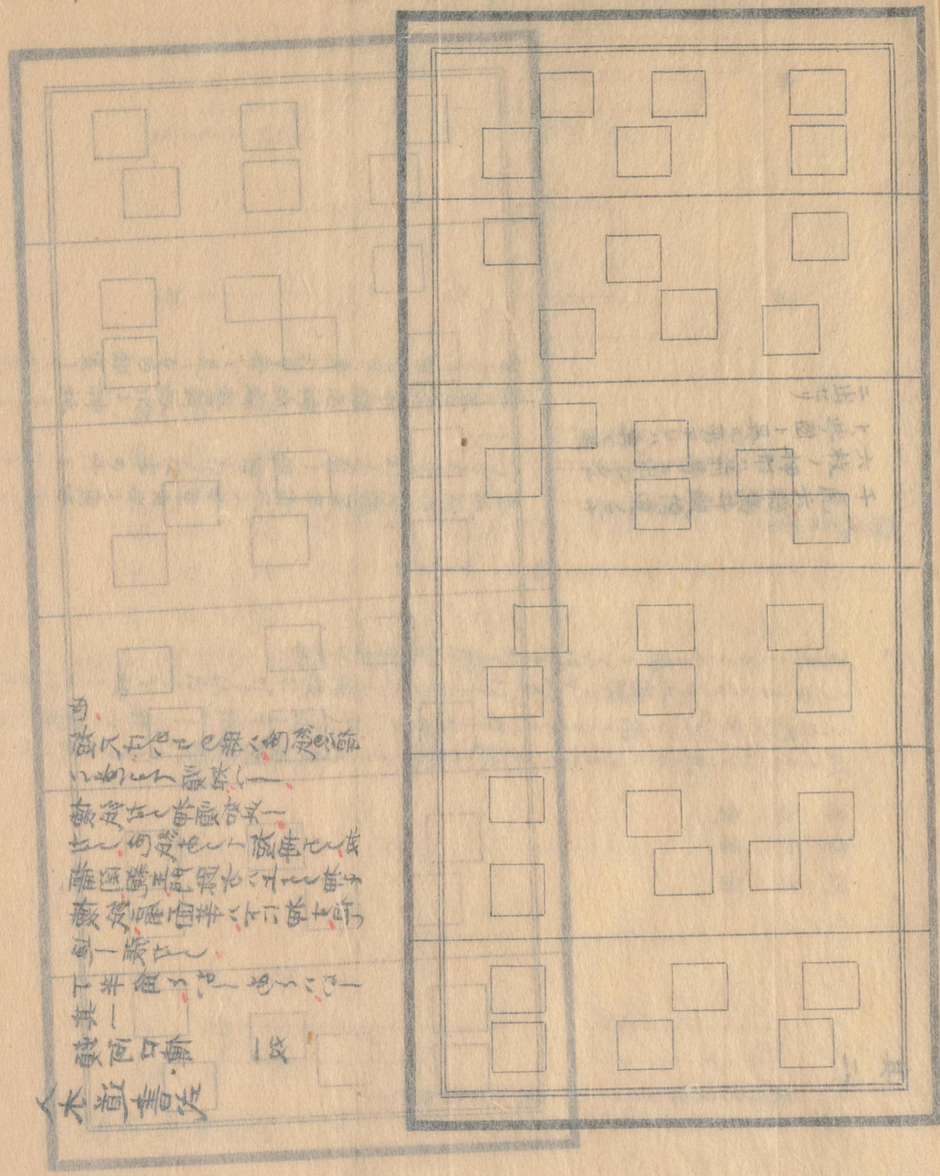
国立国会図書館　タイトル『色紙考』　請求記号 830-82
ガラス使用





同書

花色紙ハ古来ヨリ種々ノ花形ヲ切抜キ或ハ雲母ヲ引キ又ハ金銀ノ箔ヲ置キ或ハ木版ニテ摺リ出シ又ハ型紙ヲ用ヒテ摺リ出シ其他種々ノ趣向ヲ凝ラシテ製スルモノニシテ其種類甚ダ多シ

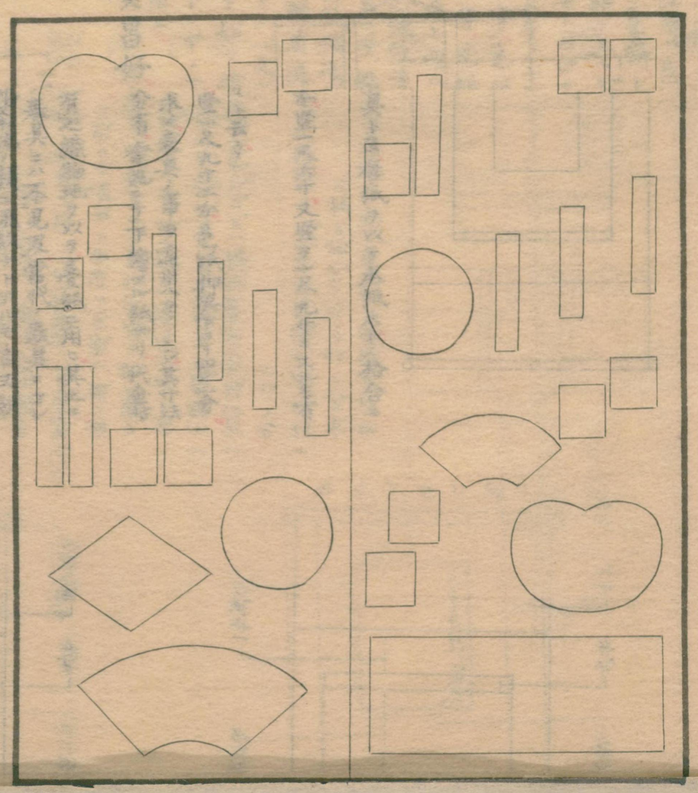


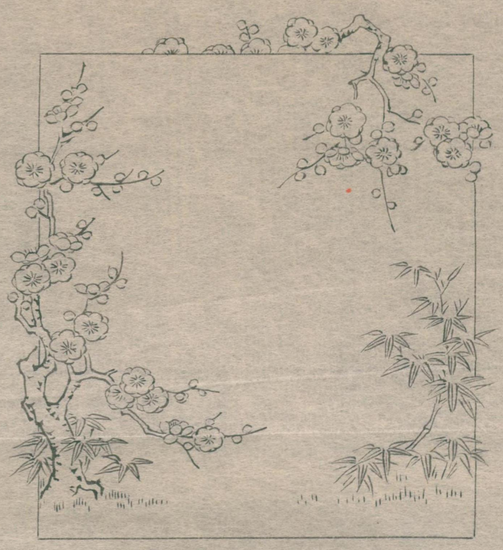
国立国会図書館　タイトル『色紙考』 請求記号 830-82

ガラス使用

同書

花色紙ハ古躰ニてはなく、今やうなり、花ニ書かけず脇へのくなり、葉なくはゝしへふるなり、
花色紙なくはゝすまし、の外まで立をたゝけて切ぬきてもよろし、是は品々ありて、其画の心とかく
ことなり、尚々にかく繪ニ少しもかけん品々の事ゆへ一巻ニ尽すこと、むく





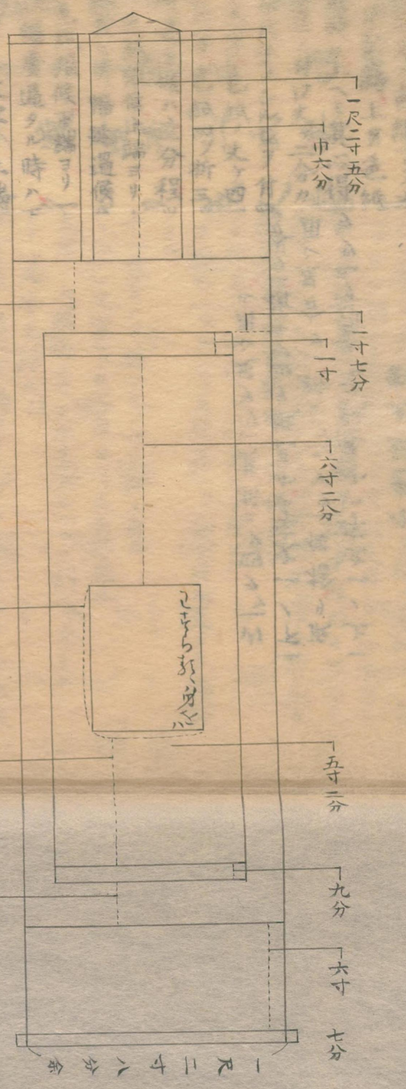
花色紙ノ圖數十種ア
レドモコトニハ一二ヲ
出スノミ

国立国会図書館　タイトル『色紙考』　請求記号 830-82
ガラス使用　挟み込み物

国立国会図書館　タイトル『色紙考』 請求記号 830-82

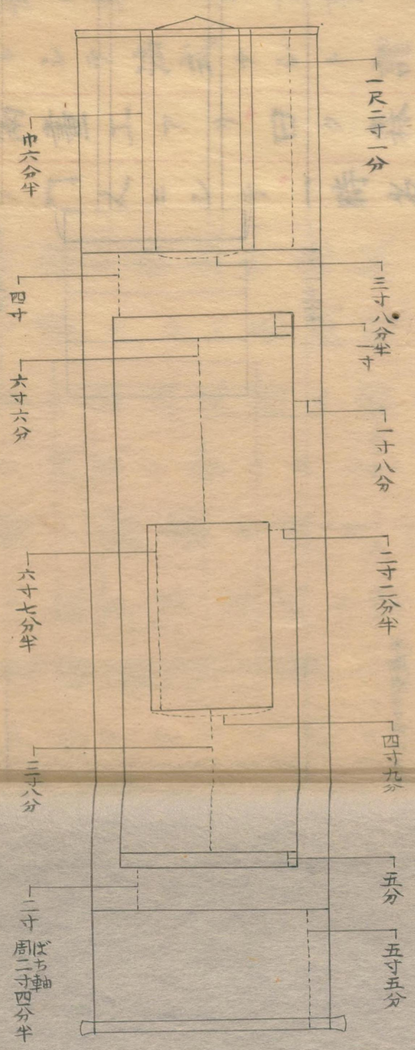
ガラス使用

上下古印金地紫紋長春からくさ地さやかく風帯一文字くろく金紋雲形裏絹あさぎ



片桐貞昌好だいへうぐ寸法

紐長三尺



之ヲ臺表具ト云

如右色紙或ハ歌書ノ切ヲ押ヲ臺表具ト云唐紙ヲ以テ本紙ホドノ格合ニ表具ヲ仕テ夫ニ色紙ヲ押ス

一利休流色紙表具臺紙ノ寸法横一尺三分竪一尺六寸又竪ヲ一尺九寸ニスルモ有之ト云々

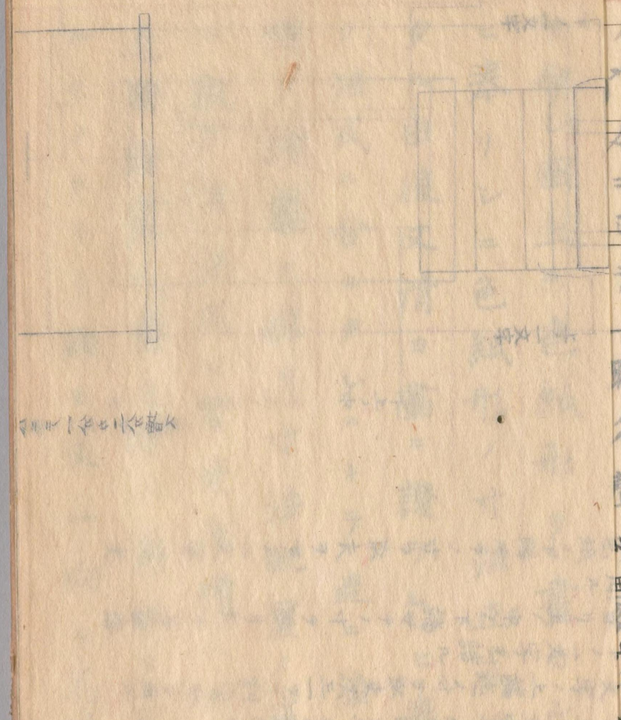
一吉田織部流臺紙横一尺三分竪一尺四寸ト云々

一小堀遠州色紙表具臺紙横九寸五分竪一尺九寸二分色紙押据下ヨリ四寸二分

右ハ大文字屋宗味一休筆ノ小色紙ヲ求メ表具ノ事ヲ遠州ヘタノミシ其寸法ヲ寫スト則千峡色紙竪三寸五分横三寸一分有金泥ニテ下繪アル紙ナリ代金格両ニ求シ表具ハ宗由ト云者之ヲ致ス

一臺表具ノ臺紙ノ所ヲ段子地或ハ地紋有之織物地ヲ以テ臺紙ニ用ヒ其上ニ色紙或ハ上筆ノ唐紙ヲ押モアリ昔ノ表具ニハ不見及當代ノ表具ニコレアリ茶屋掛物ニハ面白シ其臺絹白地茶地ノ類ニ飛紋ナトアルモ古又紗綾紋稲妻紋ノ類吉色紙ノ取合セコレアルヘシ吟味シテ取合スヘシ

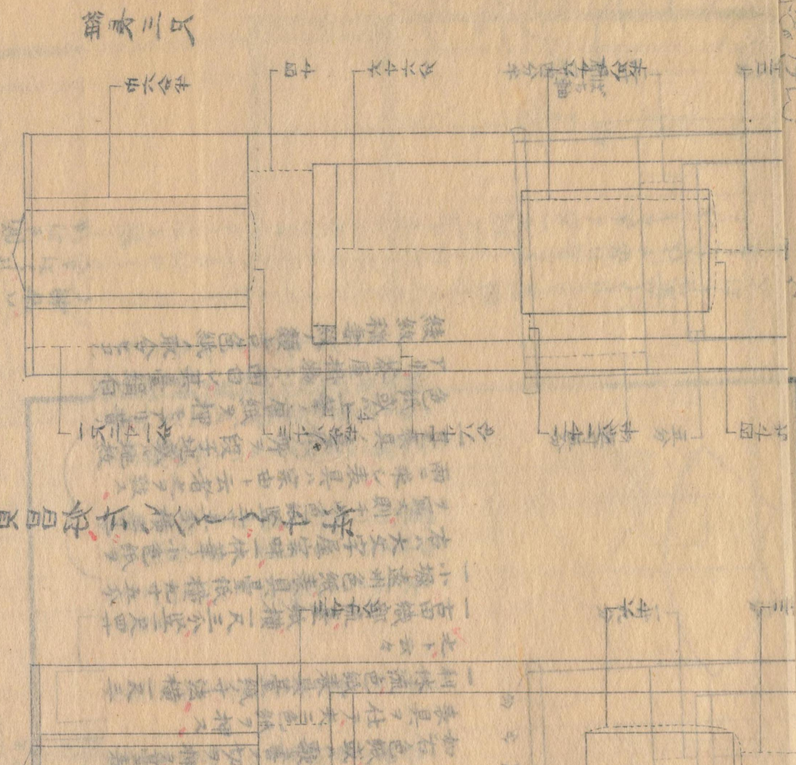
ガラス使用
国立国会図書館　タイトル『色紙考』　請求記号 830-82

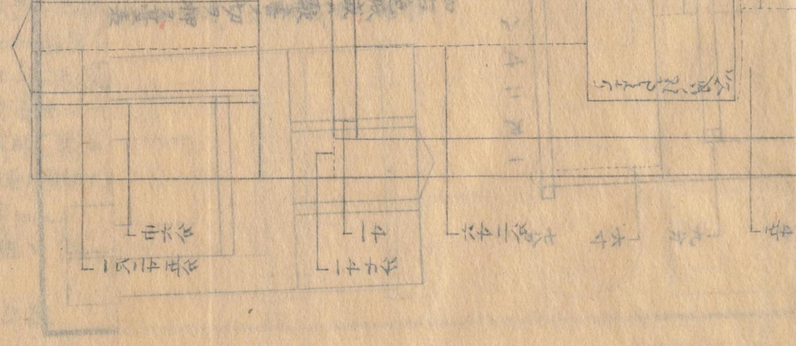


要スルニ色紙ノ寸法及ヒ上下ノ足ヲ用ヒル事ハ古畫ニ據如シ然レトモ古畫ニ據トシテ法式ナシト謂フ可ラス兩畫工アリ曰ク森高雅ノ門人ニシテ一時名聲

表具之書

色紙屋 佐家





国立国会図書館　タイトル『色紙考』　請求記号 830-82

ガラス使用

表具之書

色紙臺紙ノ割　同表具之割

一臺紙ノ丈ケ色紙二ツ半、又ハ格好悪キ時色紙長サ半分ヲ二ツ折其一ツヲ足シ用ユ夫ニテ格好悪キ時ハ段々二ツニ折テ一ツ宛足シ用ユ臺紙ノ天地ヲ極ル左右ハ色紙一ツノ半分ヅヽヨリ臺紙ノ惣体ノ格好ヲ極メ臺紙丈ケ色紙二ツ半分ノ時上ヲ色紙一ツダケ明ケ臺紙ヘ張リ申候、又半分ノ小半分ヲ増シ候時ハ上ヘモ其心得ニテ一ツヨリ多ク上ケ色紙ヲ張リ申候、尤モ左右天地共表具ノ付口丈ケ二分カ三分バカリモ餘慶紙ヲタヽ切申候、然レドモ前ニ記ス通リ曲尺手ノシルシヲ付置ク也、

一上ノ一文字色紙ノ丈ケ四ツニ折其一ツヲ四ツニ折其三ヲ用ユル、

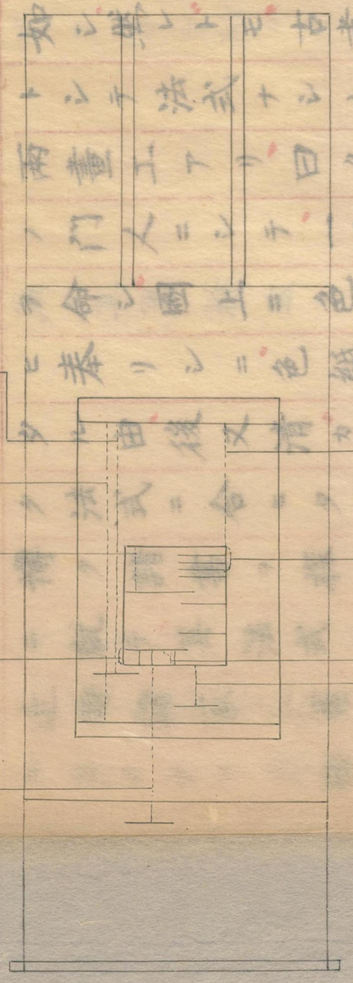
一下ノ一文字色紙四ツ折三ツヲ捨テ一ツヲ二ツニ折其一ツ分ヲ用ル夫ニテ格好少シ廣過キ候ハヽ二分程ツヽメル、

一上ノ中色紙張候上端ヨリ上ノ一文字ノ下端マデノ寸ヲ取リ用ル、但夫ニテ幅延過候ハヽ上ノ一文字二ツカ二ツ半カ二ツ丈モ詰候也、

一下ノ中色紙張候下端ヨリ一文字ノ上端迄ノ寸ヲ取夫ヲ三ツニ割二ツ分ヲ用ル、但幅廣過ク時ハ下ノ一文字ヲ詰ル、

一上ノ上下ノ一文字ノ上端ヨリ上ノ中ノ下端マデノ寸ヲ取リ夫ヲ上ノ中縁一ツタケ切テ捨残リヲ用ル、

一下ノ下下ノ中ノ下端ヨリ色紙ノ下端マデノ寸ヲ取夫ヲ下ノ一文字一ツ丈ヲ足シ用ル、



一幢補左右ハ色紙ノ幅ヲ四ツニ折三ツヲ捨テ一ツ分ニ小半分足シ用ル、

一輪補ノ左右ハ二分半カ三分ナリ、

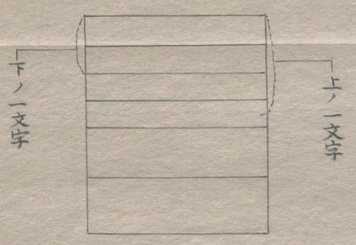
一風帯ノ幅ハ色紙ヲ二ツニ折一分ヲ四ツニ折一ツ分ニ曲尺ニテ一分カ二分足シ用ル、

一軸ノ出ハ末ニ記ス、

小色紙之割

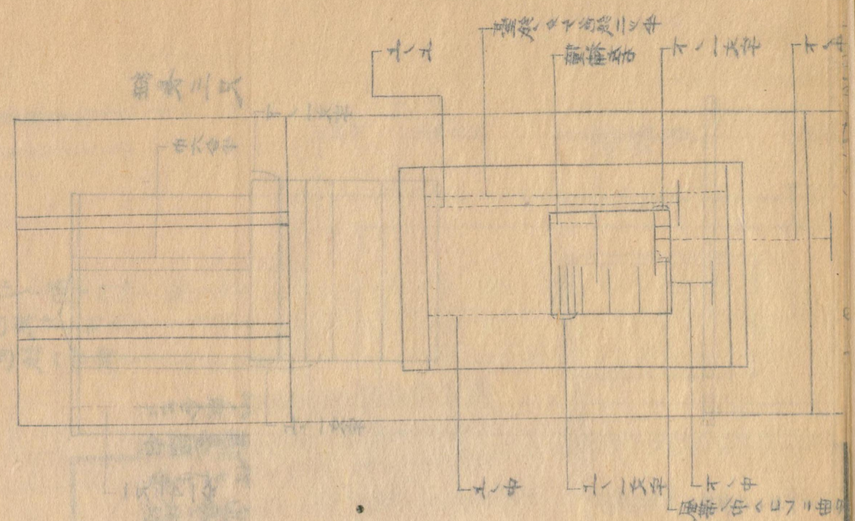
一上ノ一文字ハ小色紙二ツニ折リ一ツヲ四ツニ折其一ツヲ捨残リ三ツヲ取リ捨候一ツヲ二ツニ折一ツ分足シ用ル、

一下ノ一文字ハ小色紙ヲ四ツニ折一ツ分ヲ用ユ格好悪敷時ハ捨候三ツノ内一ツヲ四ツニ折其一ツヲ足シ用ル、



国立国会図書館　タイトル『色紙考』　請求記号 830-82
ガラス使用

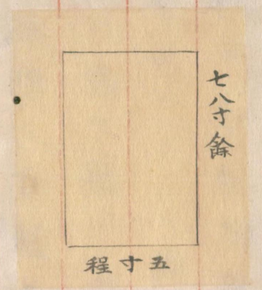
要スルニ、色紙ノ寸法及ビ押様等、古来一體ノ定式ナキガ
如シ、然レドモ、古畫ニ據リ、舊記ニ徴スルニ、長短配置、亦漫然
トシテ法式ナシト謂フベカラズ、予若年ノ頃、旧里名古屋ニ
両畫工アリ、曰ク森高雅、曰ク渡邊清、二氏共ニ畫所土佐家
ノ門人ニシテ、一時名聲ヲ齊クセリ、或人嘗テ高雅ニ畫
ヲ命シ、岡上ニ色紙形ヲ畫カシメ、冷泉某卿ニ讃ヲ乞ヒ
奉リシニ、色紙形ノ寸法正式ニアラズトテ謝絶セラレ
タル由、後又清ガ畫ニ讃ヲ乞ヒ奉リシニ、色紙形ノ寸法善
ク法式ニ合ヒタレバトテ、直ニ染筆アリシト聞ケリ、依テ
博ク諸書ヲ探リ、寸法配置ノ式ヲ聚集シ、又親ク渡邊氏
ニ就テ、其法式ヲモ受ケ傳ヘタリ（其寸法ハ前篇ニ出セリ）
近時諸家ノ畫ク所ノ色紙ヲ見ルニ、適々法式ニ合ヒタ
ルモノアリト雖モ、又一向ニ不規則ナルモノモ少ナカラ



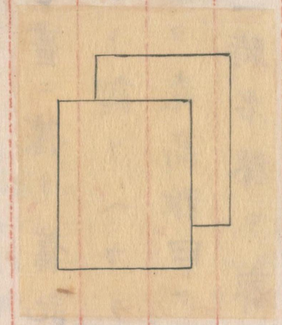
国立国会図書館　タイトル『色紙考』 請求記号 830-82

ガラス使用

ズ、是レ予ガ寡聞ヲ顧ミズシテ、コノ色紙考ヲ著ス所以ナリ、試ニ其不規則ナル例證ヲ擧ゲンニ、或ハ其置様左ノ如キモノアリ、



グルモノアリ、乃チ左ノ如シ、



凡ソ是等ノ類ハ、曽テ古式ニ見ザル所ノモノナリ、若シ畫家

コレヲ以テ、自ラ一機軸ナリ、新発明ナリトイハバ、予輩ノ敢テ喙ヲ容ル所ニ非ラズ、

国立国会図書館　タイトル『色紙考』 請求記号 830-82
ガラス使用

830
82

国立国会図書館　　タイトル『色紙考』　請求記号 830-82

ガラス使用

830
82

国立国会図書館　タイトル『色紙考』 請求記号 830-82

ガラス使用

国立国会図書館　　タイトル『色紙考』　請求記号 830-82

ガラス使用